

横浜北西部のシダ植物

岡 武 利

Taketoshi OKA: The Fern Flora of the Northwestern Part of Yokohama

はじめに

1978年6月、旭区矢指町の杉林下に初めて足を踏み入れた際、その当時は、横浜では未記録のサイゴクイノデに遭遇した。また、横浜における記録はあるが、自生が疑問視されていたイノデモドキをも見出し、たちまち、同地域の豊富なシダ相に魅了されてしまった。以来、10年余りにわたって、矢指町や三保市民の森、およびその周辺の杉林などを訪れ、シダの調査をした。その間、ヨコハマイノデ、ミドリイノデの2新雑種の発見をはじめ、神奈川県新産のワカナシダやフジクマワラビを見出す等、横浜北西部のシダ分布について数々の新知見を得た。それらの一部は、「横須賀市博物館館報」に神奈川県初記録のシダ(大谷, 1980)として紹介されたり、「日本のシダ植物図鑑」第3巻(倉田 悟・中池敏之, 1983)等に引用されている。

調査回数は、散策程度のものを含めると100回を超えた。しかし、未調査の地域が残っており、見落としもあると思われたので、当地域のフロラを論じるには時期尚早と考えていた。ところが、小崎昭則氏が、1984年以来、緑区を中心にシダを調査され、1985年に長津田町においてカタイノデを発見されたのを皮切りに、稀少なシダの新産地を次々と見出された。最近、旭区にも足を伸ばされ、筆者の見出し得なかったキヨスミヒメワラビを再発見された。小崎氏は、それらの成果を惜しげもなく筆者に提供され、筆者の調査結果と併せて発表することを勧められた。折しも、矢指町の小谷が埋められ、オオキジノオが再び消滅したり、都岡町の杉林が削りとられて、サイゴクベニシダやヨコハマイノデが犠牲になったのを目の回りにした。また、横浜におけるシダの宝庫とも言えるべき、三保町や新治町付近に大型開発の話があると聞き及んで、当地域のシダフロラを発表し、一人でも多くの人に、当地域のシダ植物相が変化に富み、貴重であるこ

とを知ってほしいと思い始めた。そうすることで、当地域の自然環境の保全に、多少なりとも役に立つことができればと考えたからである。幸い、小崎氏の調査によって、筆者の未調査地域の殆どがカバーされ、横浜北西部のシダフロラとして一応の体裁が整えられそうなので、筆者自身の調査は不十分ではあるが、あえて筆を執ったものである。

本稿をまとめるにあたり、小崎氏には貴重な資料の提供をはじめ、現地をご案内いただくなど言葉に尽くせない程ご協力をいただいた。深く感謝申しあげる。また、現地をご案内いただくとともに「赤田通信」によって、緑区の自然に関する生きた情報をご提供下さった「緑区・自然を守る会」の北川淑子氏、そして日頃ご指導を賜わっている国立科学博物館の中池敏之博士に対して厚くお礼申しあげる。

横浜北西部のシダ植物相の特色

調査地域の大部分が多摩丘陵の南東部に位置し、標高90m前後の丘陵が連なっている。それらの丘陵地帯の大半は住宅地に変貌しつつあるが、三保市民の森を中心に、一部伐り残された杉林下は、シダの絶好の生育地となっている。

特に、温帯性シダと暖帯性シダの混生は注目に値する。温帯性のオンシダやミヤマクマワラビの付近に、暖帯性のマルバベニシダやサイゴクベニシダが見られる所は、神奈川県内では少ないであろう。標高は著しく異なるが、静岡県御殿場の環境とよく似ており、同地との共通種が多い。これは、「横浜植物誌」(出口, 1968)にも述べられているように、杉の樹冠によって寒暑が緩和され、適当な空中湿度が維持されることにより、温帯性と暖帯性のシダの共存が可能となっているのであろう。とりわけ、イノデ類においてその傾向が顕著である。

当地域には、正式に記載されていないゴサクイノデ等の雑種を含めると、およそ20種類のイノデの間が見られる。中でも、沿海性のアスカイノデと他の山地性イノデとの混生は、稀少な雑種を形成し、ヨコハマイノデとミドリイノデの誕生となった(大谷・岡, 1980)。両雑種の発表以来ほぼ10年が経過したが、未だに他所で発見されたとの報をきかない。それぞれの両親種であるアスカイノデとイノデモドキやツヤナシイノデとの混生地が少な^い為であろう。

イノデ類に次いで、神奈川県としては、ペニシダ類の多いことが挙げられる。30余年前に発見されたナチクジャクは、同種の東北限産地であり、神奈川県における唯一の自生地でもあった上川井町(三保町との説もある)から、発見後数年で消滅してしまったらしい(出口, 1968)。以来、再発見されていない。筆者も、ナチクジャクの生育していそうな場所を精査し、再発見に努めたが果たせず、現在、幻のシダとなっている。サイゴクペニシダ、ギフペニシダ、マルバペニシダおよび同種との異同が問題となるエンシュウペニシダは、それぞれの東北限に近い産地とは思えない程、立派な株が自生している。キノクニペニシダと呼ばれる型も稀にある。

ウラジロが比較的多いことにも触れておきたい。イノデやペニシダ程多くはないが、当地域のやや乾燥した杉林下や檜林下を探索すると、必ずと言って良い程ウラジロの群生地に出会う。当地域よりも温暖な三浦半島や大磯付近よりも、ずっと多いようだ。緑区新治町には2 mを越す大株の群生地があり、伊豆辺りと見紛う程の生育を示している。

一方、コケシノブ科やウラボシ科の種類をはじめとする、着生シダの類が極めて少ない。当地域に小河川はあるが、溪谷と呼べる規模にはほど遠く、露岩地帯もあまり見られないことに起因するものであろう。横浜南部から3種類報告されているコケシノブ科のシダは、現在迄全く見つかっておらず、ウラボシ科のシダも、4種類の自生を認めたが、自生地および個体数ともに大変少ない。

特筆すべき種類として、まず、当地域をタイプ産地とする、ヨコハマイノデ、ミドリイノデの2雑種が挙げられる。以下、神奈川県初の記録となった、ワカナシダ、フジクマワラビ、ゴサクイノデ、ホクリクイノデ、横浜新産の、イワヒメワラビ、オニカナワラビ、ホソバイスワラビ、サイゴクペニシダ、ギフペニシダ、エンシュウペニシダ、ムクゲシケンダ、カタイノ

デ、イワシロイノデ、サイゴクイノデ、サカゲイノデ、オオキヨスミンダ、アマギイノデ、タカオイノデ、ヒメノキシノブ、そして横浜における再発見となったオオキシノオ、キヨスミヒメワラビ、サクライカグマ、チャボイノデ等がある。その他、横浜南部等からは既に報告されており、従って横浜新産ではないが、北西部では初めてのシダとして、フモトカグマ、オオカナワラビ、ホソバカナワラビ、ヒロハイヌワラビ、ヘランダ、ミヤマイタチシダ等を挙げる事ができる。

横浜北西部のシダ植物目録

凡 例

1. この目録は、1978年6月から1989年11月までの間に、旭区と緑区および両区と地理的に密接な関連のある隣接地域において、筆者自身が採集したものと、一部、小崎正則氏の標本を基に作成した。
2. 文献等に記録があり、当地域における自生が確実と思われるものでも、筆者らが採集していないものは省略した。
3. 証拠標本は、一部のシダについては横須賀市博物館および国立科学博物館に収めてあるが、後日、神奈川県立博物館にも収納する予定である。小崎氏の標本は、国立科学博物館および神奈川県立博物館に収められている。
4. この目録の科名の配列は、「新日本植物誌・シダ篇」(中池敏之, 1982)に依った。属名等もそのまま用いたが、種の配列は雑種を含めたアルファベット順とした。
5. 標本の産地・採集年度は、紙数の都合等により代表的なものおよび著しいもののみ記した。標本番号は省略した。
6. 産量はおよその目安で、多い、普通、少ない、稀とし、必要に応じて個体数その他コメントを付記した。

トクサ科 Equisetaceae

スギナ *Equisetum arvense* L.

旭区矢指町(1978)等。多い。

トクサ *E. hyemale* L.

旭区下川井町(1982)、緑区池辺町(小崎, 1987)。当地域のものは、全て栽培品からの逸出であろう。

イヌスギナ *E. palustre* L.

旭区矢指町(1982)。1ヶ所に群生地あり。

ヒカゲノカズラ科 Lycopodiaceae

トウゲシバ *Lycopodium serratum* THUNB.

旭区矢指町 (1978), 緑区三保町 (小崎, 1988) 等。
杉林下にやや少ない。

イワヒバ科 Selaginellaceae

クラマゴケ *Selaginella remotifolia* SPRING

旭区川井宿 (1979), 緑区池辺町 (小崎, 1987)。少ない。

ミズニラ科 Isoetaceae

ミズニラ *Isoetes japonica* A. BR.

旭区矢指町 (1981), 上川井町 (1984), 緑区長津田町 (小崎, 1986) 等。廃田等の湿地に稀。近年自生地が埋め立てられ, 減少が著しい。

ハナヤスリ科 Ophioglossaceae

ナガボノナツノハナワラビ *Botrypus strictus* (UND.)

HOLUB

旭区下川井町 (1978), 緑区新治町 (小崎, 1984) 等。群生することはないが, 各地の杉林下にポツポツと見られる。

ナツノハナワラビ *B. virginianus* (L.) HOLUB

旭区下川井町 (1979), 緑区長津田町 (小崎, 1984) 等。前種と同様の環境下に生育するが, 前種よりも少ない。

オオハナワラビ *Sceptridium japonicum* (PRANTL)

LYON

旭区矢指町 (1980) 等。杉林下に普通。

フエノハナワラビ *S. ternatum* (THUNB.) LYON

旭区上川井町 (1982), 緑区長津田町 (小崎, 1987) 等。落葉樹林下, 林縁などに普通。向陽地のもは, 冬季鮮かに紅葉するものが多い。

ゼンマイ科 Osmundaceae

ゼンマイ *Osmunda japonica* THUNB.

緑区三保町 (1981) 等。杉林下, 林縁, 土手等に多い。上記の標本はハゼンマイと呼ばれる型で, 人家付近の土手様の所で採集した。草刈り等の人為的な手が加わった所で時折見る。

旭区今宿で, ヤシャゼンマイが採集された記録があるが (出口, 1953), 現在このシダを当地域に期待するのは無理であろう。

カニクサ科 Schizaeaceae

カニクサ *Lygodium japonicum* (THUNB.) SW.

旭区上白根町 (1981) 等。林縁等に普通。

ウラジロ科 Gleicheniaceae

ウラジロ *Gleichenia japonica* SPR.

旭区矢指町 (1978), 上白根町 (1981), 緑区新治町 (1981), 三保町 (小崎, 1986) 等。杉, 檜林下にやや

少ない。

コシダは未発見である。

ワラビ科 Pteridaceae

クジャクシダ *Adiantum pedatum* L.

緑区長津田町 (小崎, 1984) 等。稀。

イワガネゼンマイ *Coniogramme intermedia* HIERON.

旭区矢指町 (1980), 緑区新治町 (1980) 等。湿った杉林下, 小流れの脇などに少ない。

ウラゲイワガネ *C. intermedia* HIERON. form. *villosa* (CHING) KURATA

緑区新治町 (小崎, 1988)。稀。

イワガネソウ *C. japonica* (THUNB.) DIELS

旭区矢指町 (1978), 緑区新治町 (1980) 等。杉林下に普通。

イスイワガネソウ *C. × fauriei* HIERON.

緑区新治町 (1981)。イワガネゼンマイとイワガネソウの雑種。両種の混生地に稀。

イスシダ *Dennstaedtia hirsuta* (SW.) METT. ex MIQ.

旭区矢指町 (1978), 緑区三保町 (1980) 等。乾いた林縁等に普通。

オウレンシダ *D. wilfordii* (MOORE) CHRIST

旭区下川井町 (1978), 緑区長津田町 (小崎, 1986) 等。杉林下, 湿った林縁等にやや少ない。三保市民の森の山道沿いに, ヒメシダとともに本種の群生が見られる。

イワヒメワラビ *Hypolepis punctata* (THUNB.) METT. ex KUHN.

旭区川井宿 (1980), 緑区三保町 (1978—横浜新産) 等。やや日の当たる林床に稀。

フモトシダ *Microlepia marginata* (PANZER) C. CHR.

旭区矢指町 (1978), 緑区長津田町 (小崎, 1986)

等。杉林下にやや少ない。

フモトカグマ *M. pseudo-strigosa* MAKINO

旭区矢指町 (1980)。神武寺をタイプ産地とする本県にゆかりのシダである。「日本のシダ植物図鑑」第1巻 (倉田・中池, 1979) によれば, 国内では本県南部をほぼ分布の中心として, 千葉県から愛知県の主として太平洋岸に自生している。1980年2月, 旭区矢指町のやや乾いた杉林下で数株見出した。本種の北限に近い産地であろう。

タチシノブ *Onychium japonicum* (THUNB.) KUNZE

旭区桐ヶ作 (1979), 緑区池辺町 (小崎, 1987) 等。やや日の当たる林縁や土手等に少ない。

ワラビ *Pteridium aquilinum* var. *latiusculum* (DE-

sv.) UND. ex HELLER

旭区上白根町(1989)等。林縁等に普通。

オオバノイノモトソウ *Pteris cretica* L.

旭区上白根町(1981)等。やや明るい林床に普通。

イノモトソウ *P. multifida* POIR.

旭区上白根町(1981)等。石垣等に普通。

ホランソブ *Sphenomeris chinensis* (L.) MAXON

旭区桐ヶ作(1980)。赤土の崖等に稀。

キジノオシダ科 Plagiogyriaceae

オオキジノオ *Plagiogyria euphlebica* (KUNZE) METT.

旭区矢指町(1979)。出口長男先生により、上川井から2株報告されている。1株は同先生が栽培され、現地に残した1株は消滅した(出口, 1968)。筆者は1979年3月、矢指町の小さな流れの脇に1株見出した。実葉をつけた立派な株だったが、1989年2月に現地に行ったところ、病院建設の為にオオキジノオの生育していた小谷は埋められ、再び消滅してしまった。

オシダ科 Aspidiaceae

オオカナワラビ *Arachniodes amabilis* (BL.) TINDALE

旭区都岡町(1979)、柏町(1980)、緑区十日市場町(小崎, 1988)。杉林下に稀。

ホソバカナワラビ *A. aristata* (FORST.) TINDALE

旭区上白根町(1979)。左記のやや乾いた杉と檜の植林下に1m²程の小群生地が1ヶ所見つかっただけである。神奈川県としては、最も北の産地と思われる。

ハカタシダ *A. simplicior* (MAKINO) OHWI

旭区川井宿(1979)、東希望ヶ丘(1981)、緑区三保町(小崎, 1986)。杉林下にごく稀。

オニカナワラビ *A. simplicior* var. (TAGAWA) OHWI

旭区川井宿(1979—横浜新産)、緑区三保町(1981)、十日市場町(小崎, 1985)。やや乾いた杉林下にごく稀。

リュウメンシダ *A. standishii* (MOORE) OHWI

旭区矢指町(1978)等。杉林下に多い。

ホソバイヌワラビ *Athyrium iseanum* ROS.

旭区上川井町(1980—横浜新産)、川井宿(1981)。緑区からは未報告である。上川井町の自生地は、瀬谷市民の森に続く湿潤な杉林下で、25m²くらいの範囲に20株余が群生している。川井宿では1株見たに過ぎない。

イヌワラビ *A. niponicum* (METT.) HANCE

旭区桐ヶ作(1978)等。いたる所に極めて普通。

ニシキシダ *A. niponicum* monstr. *metallicum* (MAKINO) NAKAIKE

旭区桐ヶ作(1978)、緑区三保町(1979)等。明るい林縁等に少ない。

ヤマイヌワラビ *A. vidalii* (FR. et SAV.) NAKAI

旭区矢指町(1978)等。杉林下に普通に生じる。

ヒロハイヌワラビ *A. wardii* (HOOK.) MAKINO

旭区矢指町(1978)、緑区新治町(1980)等。杉林下にやや少ない。矢指町には小群生地がある。

ヘビノネゴザ *A. yokoscense* (FR. et SAV.) CHRIST

旭区矢指町(1978)等。杉林下に普通に生える。

シケチシダ *Cornopteris decurrenti-alata* (HOOK.)

NAKAI

緑区新治町(1981)。湿潤な杉林下に僅かに成育している。旭区では未発見である。

キヨスミヒメワラビ *Ctenitis maximowicziana* (MIQ.) CHING

旭区矢指町(小崎, 1988)、保土ヶ谷区川島町(小崎, 1989)。本種は「横浜植物誌」(出口, 1968)に旭区中沢町の記録があり、掲載の写真もキヨスミヒメワラビに間違いはないが、宅地造成により失われたとされていた。上記のように、1988年になって小崎氏によりようやく再発見され、また、続いて1989年にも別の場所で発見された。

ホシダ *Cyclosorus acuminatus* (HOULT.) NAKAI ex H. ITO

旭区桐ヶ作(1978)等。林縁等に極めて普通。

オニヤブソテツ *Cyrtomium falcatum* (L. f.) PR.

旭区川井宿(1979)、緑区三保町(小崎, 1987)等。乾いた杉林下、石垣等に稀。

ヤブソテツ *C. fortunei* J. SM.

旭区上白根町(1980)等。やや乾いた林縁等に普通。ヤマヤブソテツ *C. fortunei* var. *clivicola* (MAKINO)

TAGAWA

旭区矢指町(1981)、上白根町(1981)等。やや湿った杉林下等に少ない。矢指町の標本は多羽片型でホソバヤマヤブソテツ(筒井貞雄, 1980)に該当するもの。ヤブソテツに含める場合もあるようだが、当面便宜的にヤマヤブソテツに分類しておく。今後の研究の進展を期待したい。

ノコギリヤマヤブソテツ *C. fortunei* var. *clivicola* monstr. *grossidens* (HIYAMA) NAKAIKE

緑区新治町(小崎, 1988)。

キョウタキシダ *Diplazium squamigerum* (METT.) MATSUM.

旭区都岡町(1979)、緑区三保町(1979)等。やや湿

った杉林下に少ない。

ヘラシダ *D. subsinuatum* (WALL. ex HOOK. et GREY.) TAGAWA

旭区矢指町 (1980), 緑区新治町 (1981)。本種は急崖地や斜面などに好んで生育するものだが、当地域は着生シダと同様、ヘラシダにとっても恵まれた環境ではなく、旭区と緑区で1ヶ所ずつ小群落を見出したに過ぎない。旭区矢指町の自生地は、ヨコハマイノデのタイプ株の近くで、小さな流れの脇の平坦地に1m²の範囲に小群落を成している。緑区新治町の自生地では、谷戸の奥の、腐植質が雨で流され、表土が堅く乾いた急斜面に散生している。

イワヘゴ *Dryopteris atrata* (WALL. ex KUNZE) CHING

旭区上白根町 (1979), 緑区三保町 (1980) 等。杉林下に稀に1株, 2株と見つかる。

サイゴクベニシダ *D. championii* (BENTH.) C. CHR. ex CHING

旭区川井宿 (1979—横浜新産), 緑区三保町 (1979) 等。当地域において、数ヶ所に小群落が見られる。当地域よりも暖かい三浦半島からは未だ発見されたとの報なく、また大磯や小田原あたりでも極めて少ないようだ (田中一雄, 1987)。「横浜植物誌」(出口, 1968) 等では、横浜における本種の自生は疑問視されているが、このような大型のベニシダが長い間見過ごされていたことは不思議である。近年、急速に分布を拡げたのであろうか。

ミサキカグマ *D. chinensis* (BAK.) KOIDZ.

旭区矢指町 (1979), 緑区三保町 (1979) 等。乾いた林下や斜面にやや少ない。

オンダ *D. crassirhizoma* NAKAI

旭区矢指町 (1979), 緑区三保町 (1979) 等。杉林下にポツンと1株ずつ見つかることが多い。付近の環境が変わると、1mくらいの大株が簡単に消滅してしまう。10数ヶ所の自生地があるが、年々個体数や自生地そのものが減少している。

オオクジャクシダ *D. dickinsii* (FR. et SAV.) C. CHR.

旭区都岡町 (1985)。本種は、出口先生が1960年に中尾町で採集したものを栽培保存中とする記録ならびに写真があるが (出口, 1968)、写真からは、オオクジャクシダか、イワヘゴか、あるいは他のシダか区別はできない。本シダの神奈川県における確実な記録は、箱根や湯河原等の県西部に限られており、旭区都岡町は著しくかけ離れた産地である。やや明るい杉林下に、ただ1株生育していた。

ベニシダ *D. erythrosora* (EAT.) O. KUNTZE

旭区矢指町 (1978) 等。杉林下等に極めて多い。

ミドリベニシダ *D. erythrosora* form. *viridisora* (NAKAI ex H. ITO) H. ITO

旭区矢指町 (1978) 等。ベニシダと混生してやや少ない。古い葉では、ベニシダとの区別が困難である。

トウゴクシダ *D. erythrosora* var. *dilatata* (KOIDZ.) SUGUMOTO.

旭区矢指町 (1978) 等。杉林下に極めて普通。

フジクマワラビ *D. × fujipedis* KURATA

旭区都岡町 (1979—神奈川県新産), 緑区三保町 (1981)。オンダとクマワラビの雑種。クマワラビと同様に葉頂部のソーラスを着けた部分が縮小し、秋には他の部分よりも早く枯れる。できにくい雑種のように、後述のフジオンダよりもずっと少なく、上記場所に各1株ずつ生育していた。1987年7月、都岡町の自生地を訪れたところ、付近にビニールテープが張りめぐされ、何やら危険を感じたので、この株を掘りとり別場所へ避難させた。その年の11月に再び同地を訪れた時には、案の定、林は伐採され、ブルドーザーが整地をしているところであった。

マルバベニシダ *D. fuscipes* C. CHR.

旭区上白根町 (1979), 緑区三保町 (1979) 等。乾いた杉林下や赤土の急斜面等に稀に生育する。三保町の産地は、このシダの純群落状を成しており、切れ込みの浅い型の本種が20数株まとまって生えている。

サクライカグマ *D. gymnohylla* (BAK.) C. CHR.

旭区上白根町 (1986), 緑区新治町 (小崎, 1988)。「横浜植物誌」(出口, 1968) によれば、上白根の自生地は、1957年頃に行なわれた崖の切り崩し工事により、10数株あった本種が全滅したとのことであった。以後、自生についての確実な情報はなかったが、上記のように再発見することができた。

オオベニシダ *D. hondoensis* KOIDZ.

旭区矢指町 (1979) 等。やや乾いた杉林下に普通。

ギフベニシダ *D. kinkiensis* KOIDZ.

旭区川井宿 (1979—横浜新産), 緑区十日市場町 (小崎, 1989) 等。やや乾いた杉林下や檜林下に稀に生育する。旭区では数ヶ所に見られるが、緑区では小崎氏の記録を含めても2ヶ所 (各1個体) と極めて少ない。関西方面では、庭の植えこみや石垣などに生育しているのをしばしば見かけたが、横浜では杉林下等に普通のベニシダと混生していることが多く、見つけにくい。本種の北限に近い産地であらう。

キノクニベニシダ *D. kinokuniensis* KURATA

緑区三保町(1980)。杉林下に稀。ベニシダとの区別がやや困難であるが、この型に該当するものがある。

ワカナシダ *D. kuratae* NAKAIKE (nom. nud.)

緑区三保町(1979—神奈川県新産)。1979年5月に三保市民の森で本種に出会った折、イワヘゴの切れ込みの深いものとして見過ごしてしまいそうだった。念の為に旧葉を1本採ったところ、葉脈が著しく凹んでおり、ワカナシダであることに気がついた。神奈川県新産であり、ここより北では、初発見地である群馬県の他僅かに知られているに過ぎず、三保町は北限に近い貴重な産地である。杉林下のやや湿潤な平坦地に、オクマワラビやリュウメンシダとともに生えている。発見当初は1株だけだったが、1982年8月に現地を訪れた際に、最初に発見した株の横に10cmくらいの小株が生じているのに気がつき、都合2株となった。その後、新たな株は見つかっていないが、当該株から採取した胞子を人工的に培養したところ、幼苗を多数得ることができたので、胞子による繁殖力は旺盛であることが窺え、今後、自生地を中心に、更に分布を拡大していくのではないかと期待している。三保町における観察では、イワヘゴと比較して本種の成長時期は2~3週間早い。例年、ワカナシダは5月中・下旬に胞子が成熟するが、同じ頃、イワヘゴはようやく新葉を展開し終え、胞子の成熟は6月初・中旬以後となる。

クマワラビ *D. lacera* (THUNB.) O. KUNTZE

旭区矢指町(1978)等、杉林下に普通である。旭区柏町(1981)にシクマワラビが1株ある。

エンシュウベニシダ *D. medioxima* KOIDZ.

旭区矢指町(1980—横浜新産)、柏町(1981)、緑区長津田町(小崎, 1986)等。サイゴクベニシダとマルバベニシダとの中間的なシダである。成長の良い株はサイゴクベニシダによく似ているが、ソーラスが極端に内寄りに着くことと、鱗片が殆ど全縁なることで区別できる。マルバベニシダからは、より鱗片が多く、葉軸上にやや幅の広い鱗片が圧着することで区別できるが、小型のものでは区別が難しいこともある。当初、川井宿のものはマルバベニシダと思っていたが、成長するに連れて、エンシュウベニシダの特徴がはっきりしてきたので、それと判った。やや乾いた杉林下に稀に見られる。矢指町の自生地は比較的個体数が多く、2ヶ所にそれぞれ数株ずつ生育している。他の産地では、せいぜい1~2株が見られるだけである。芽立ちの色は、当地域のものは決して紅色にならず、胞

膜も白い。一方、当地域のマルバベニシダは、市民の森のものは胞膜以外は紅色となり、新治町の一群は胞膜まで鮮かな紅色となる。

アイノコクマワラビ *D. × mituii* SERIZAWA

旭区上川井町(1979)等。クマワラビとオクマワラビの雑種。杉林下や林縁にやや少ない。

ミヤマクマワラビ *D. polylepis* (FR. et SAV.) C. CHR.

緑区新治町(1981)。1981年9月に三保町と新治町の境界付近の丘陵鞍部にて、小型の本種を1株見出し、根茎が多少立ちあがっていたので、盛り土をして根茎を覆い保護してきたが、最近見当たらない。消滅してしまったのだろう。丹沢方面には多い温帯性のミヤマクマワラビにとって、当地域は生育しにくい所とみえる。

ミヤマイタチシダ *D. sabaiei* (FR. et SAV.) C. CHR.

緑区新治町(1981)。やや湿った杉林下に小群生が見られる。旭区では未発見である。南区弘明寺(長谷川義人, 1955)の記録があるが、本県ではミヤマクマワラビと同様に、主として西部の山地に自生するものである。

オクマワラビ *D. uniformis* (MAKINO) MAKINO

旭区矢指町(1978)等。杉林下等に極めて多い。

オオイタチシダ *D. varia* var. *hikonensis* (H. ITO) KURATA

旭区上白根町(1979)等。やや明るい林下等に普通。

ヒメイタチシダ *D. varia* var. *sacrosancta* (KOIDZ.) OHWI

旭区矢指町(1978)、緑区長津田町(小崎, 1985)等。やや乾いた杉林下、林縁、急斜面等にやや少ない。

ヤマイタチシダ *D. varia* var. *setosa* (THUNB.) OHWI

旭区矢指町(1978)等。杉林下や林縁等に普通。

フジオシダ *D. × watanabei* KURATA

旭区上白根町(1978)、緑区三保町(1978)等。オンダとオクマワラビの雑種である。当地域では、片親であるオンダよりも多く、30株以上確認している。オクマワラビとの交雑によって、オンダよりも夏期の高温に耐えられる性質を得たためであろう。胞子培養を試みているが、未だ胞子での繁殖を確認するに至っていない。

ミゾシダ *Leptogramma pozoi* subsp. *mollissima* (KUNZE) NAKAIKE

旭区矢指町(1978)等。杉林下に多い。

ナラインダ *Leptorumohra miqueliana* (MAXIM. ex

Fr. et Sav.) H. ITO

旭区川井宿 (1978) 等。杉林下に普通に生じる。
ホソバシケンダ *Lunathyrium conilii* (Fr. et Sav.)

KURATA

旭区矢指町 (1978) 等の山足や杉林下に普通。

シケンダ *L. japonicum* (Thunb.) KURATA

旭区矢指町 (1978) 等。各地に極めて普通。

セイタカシケンダ *L. lasiopteris* (Kunze) Nakaike

旭区矢指町 (1978) 等の杉林下に普通。

ムクゲシケンダ *L. lasiopteris* var. *kiusiuianum* (Koidz.) Nakaike

緑区三保町 (1979—横浜新産)。セイタカシケンダに似ており、それよりも鱗片や毛が著しく多い。また、セイタカシケンダよりもやや小型で葉質も薄いように思われる。三保市民の森の湿潤な杉林下に数株見出した。この自生地は、杉の倒木の下敷きとなって消滅寸前であり、本種の存続が危ぶまれる。

フモトシケンダ *L. pseudo-conilii* Serizawa

旭区矢指町 (1979) 等。杉林下や林縁等に普通。

ミヤマシケンダ *L. pycnosorum* (Christ) Koidz.

旭区川井宿 (1979)、上川井 (1980) 等。緑区では筆者はまだ見ていない。杉林下の平坦地に稀に生育する。ハクモウイノデ型である。

オオホソバシケンダ *L. conilii* × *japonicum*

旭区矢指町 (1979) 等。ホソバシケンダとシケンダの雑種。杉林下にしばしば群生していることがある。

ムサシケンダ *L. japonicum* × *lasiopteris*

旭区矢指町 (1979)、緑区三保町 (1979) 等。湿潤な杉林下に少ない。シケンダとセイタカシケンダの雑種で、セイタカシケンダよりも大きくなる。自生地では通常群生している。

イヌガンソク *Matteuccia orientalis* (Hook.) Trev.

緑区三保町 (1979) 等、杉林下や山麓に普通。

クサソテツ *M. struthiopteris* (L.) Todaro

旭区大池町 (1979)、緑区長津田町 (小崎, 1984) 等。やや明るい林縁等に少ない。

コウヤワラビ *Onoclea sensibilis* var. *interrupta* Maxim.

旭区矢指町 (1979) 等。明るい山道沿い、田のあぜ等に多い。

ゲジゲジシケンダ *Phegopteris decursive-pinnata* (van Hall) Fee

旭区矢指町 (1979) 等。杉林下や斜面、土手等に普通。

ドウリョウイノデ *Potystichum anceps* Kurata

旭区矢指町 (1978) 等。イノデとアイアスカイノデの雑種。杉林下に両親種と混生して少ない。

アスカイノデ *P. fibrilloso-paleaceum* (Kodama) Tagawa

旭区矢指町 (1978) 等。杉林下に多い。

ゴサカイノデ *P. × gosakui* Kurata (nom. nud.)

旭区上川井町 (1980—神奈川新産)、緑区三保町 (小崎, 1989)。沿海性・暖帯性のアスカイノデと山地性・温帯性のサカゲイノデの雑種と推定され極めて珍らしい。当地域の特性を表わす1種といえるだろう。上川井町のは、4株に分けつし20数枚の葉を伸ばしていた。御殿場で最初に発見された株も分けつするようだ (志村, 1980)。

ハタジュクイノデ *P. × hatajukuense* Kurata (nom. nud.)

旭区都岡町 (1979)。アイアスカイノデとイノデモドキの雑種。両親種の混生地にごく稀に生ずる。

ホリクリイノデ *P. × hokurikuense* Kurata

旭区川井宿 (1980)、緑区三保町 (1980—神奈川新産)。アイアスカイノデとサカゲイノデの雑種で、日本海側では比較的多く見られるが、神奈川県では極めて珍らしい。杉林下に各1株ずつ見られた。

チャボイノデ *P. igaense* Tagawa

旭区上川井町 (1981)。本県における分布は、「神奈川県植物誌・1988」によると西部山地に集中しており、上川井は低地部における珍しい産地といえる。矢指町から瀬谷市民の森に続く杉林の、やや乾いた平坦な所で2株見出した。かつて上川井町で発見された記録があるが (出口, 1968)、杉林の伐採後絶えたとのことで、筆者の見出したものは、再発見ということになろう。

アイアスカイノデ *P. longifrons* Kurata

旭区矢指町 (1978) 等。杉林下に多い。

カタイノデ *P. makinoi* (Tagawa) Tagawa

緑区長津田町 (小崎, 1985—横浜新産)。小崎氏によりただ1株発見された。1989年5月、筆者も同氏の案内で現地を訪れ、やや乾いた竹林の斜面に生育する本種を確認することができた。本種は奥湯河原ではやや普通に見ることができ、箱根や山北等の西部山地にも自生するが、その他の地域からは殆んど報告されていない。勿論、横浜産の報告は今迄皆無と思われ、上記産地が横浜初記録となろう。

アマギイノデ *P. × mashikoi* Kurata

旭区上川井町(1979—横浜新産), 矢指町(1989)等。イノデとイノデモドキの雑種で, 両親種の混生する杉林内にごく稀。

ミドリイノデ *P. × midoriense* T. OKA et S. OHTANI
緑区三保町(1978—タイプ産地)。アスカイノデとツヤナシイノデの雑種。

和名は緑区に因んだものであるが, 僅かに光沢のある黄緑色の葉はイノデ類中随一の美しさで, 葉色からもミドリイノデの名に相応しい。毎年5月中旬に展開し終わった新葉を眺めるのを楽しみにしていたが, 1985年5月に突如姿を消してしまった。その後何度も現地を探索したが, 姿を現わさなかった。雑種なので, 両親種が生育できる環境さえ残っていれば, いつかあの優美なミドリイノデを, 横浜で再び見ることができよう。

ミウライノデ *P. × miuranum* KURATA

旭区矢指町(1978)等。イノデとアスカイノデの雑種で杉林下に普通にある。

オオタニイノデ *P. × ohtanii* KURATA

旭区上白根町(1978)等。アスカイノデとアイアスカイノデの雑種で, 杉林下にやや普通にある。大きくなるのでよく目立つ。

ツヤナシイノデ *P. ovato-paleaceum* (KODAMA) KURATA

旭区下川井町(1978), 緑区三保町(1980)等。やや湿った杉林下に稀に点在あるいは小群生する。

イワシロイノデ *P. ovato-paleaceum* var. *coraiense* (CHRIST) KURATA

旭区上川井町(1980), 緑区三保町(1979—横浜新産)。ツヤナシイノデに似ているが, 葉軸下部の鱗片がツヤナシイノデよりも幅狭くなること等で区別できる。上記場所にそれぞれ3株ずつ見出した。本種の南限に近い自生地であろう。ツヤナシイノデやサカゲイノデよりも, 高温や乾燥に対する耐性はないようで, 展開中の新葉が途中で枯れることがある。

イノデ *P. polyblepharum* (ROEM. ex KUNZE) PR.

旭区矢指町(1978)等。杉林下等に多い。

サイゴクイノデ *P. pseudo-makinoi* TAGAWA

旭区矢指町(1978—横浜新産), 緑区三保町(1978)等。やや湿潤な杉林内に稀に生育している。数ヶ所で見ついているが, いずれの産地も個体数は1~2株である。

サカゲイノデ *P. retroso-paleaceum* (KODAMA) TAGAWA

旭区上川井町(1980), 川井宿(小崎—1989), 緑区三保町(1978—横浜新産)。いずれもやや湿潤な杉林内に1株ずつ生育している。温帯性のシダで神奈川県における産地は極めて少ない。

イノデモドキ *P. tagawanum* KODAMA

旭区下川井町(1978), 緑区三保町(1978)等。杉林下の斜面等に散生し少ない。上川井町に30株余りの群生地がある。当地域のものは, 葉軸の鱗片が典型品と比較して幅狭く, 色も淡い。

タカオイノデ *P. × takaosanense* KURATA

緑区新治町(小崎, 1988), 保土ヶ谷区川島町(1980—横浜新産)。アイアスカイノデとツヤナシイノデの雑種で, 上記場所に1株ずつ生育している。川島町の自生地付近には, アイアスカイノデは多いがツヤナシイノデは未見である。

ジュウモンジシダ *P. tripterum* (KUNZE) PR.

旭区矢指町(1978)等, 杉林下にやや少ない。

ヒメカナワラビ *P. tsus-simense* (HOOK.) J. SM.

旭区柏町(1980)。通常はやや乾いた岩崖や急斜面等に生えているが, 前述したように, 当地域はそのような環境を好むシダにとって住みにくいようで, 杉林下の平坦地に1株見出したに過ぎない。

オオキヨスミンダ *P. tsus-simense* var. *mayebarae* (TAGAWA) KURATA

緑区三保町(1979—横浜新産)。三保市民の森の杉林下に奇蹟的に1株が生育している。山道の近くなので, 踏まれたら消滅してしまいそうだ。

ヨコハマイノデ *P. × yokohamense* T. OKA et S. OHTANI

旭区矢指町(1980—タイプ産地), 緑区三保町(1978)等。アスカイノデとイノデモドキの雑種。1978年11月に三保市民の森で第1の株を発見し, 以後旭区上川井町, 矢指町, 都岡町などで次々と見つかった。矢指町の標本を基準標本として, ミドリイノデとともに新雑種として発表された。イノデモドキやアマギイノデに似ているが, それらよりも鱗片が細く, 生時の葉質が薄いこと等で区別できるが, 標本ではアマギイノデとの区別が難しいこともある。当地域ではアマギイノデやハタジュクイノデよりも多い。いずれの自生地も, やや乾いた杉林下で, 付近にアスカイノデとイノデモドキが見られる。

ハンゴシダ *Thelypteris glanduligera* (KUNZE) CHING

旭区矢指町(1978)等。乾いた林下に普通。

コハンゴシダ *T. glanduligera* var. *elatior* (EAT.)

KURATA

旭区矢指町 (1979), 上川井町 (1981)。やや乾燥した杉林下に稀。いずれの場所も小群生状態を呈している。

ハリガネワラビ *T. japonica* (BAK.) CHING

旭区矢指町 (1978) 等。杉林下に普通に生える。

アオハリガネワラビ *T. japonica* form. *viridescens* (MAKINO) H. ITO

旭区上川井町 (1981)。葉柄がワラ色で、ハリガネワラビよりも小型で葉質が薄く、形態的にはイワハリガネワラビと同じものがある。やや乾燥した杉林内に生育しており、生態的観点からアオハリガネワラビにした。

ヤワラシダ *T. laxa* (FR. et SAV.) CHING

旭区川井宿 (1978) 等。杉林下にやや普通。

ヒメシダ *T. palustris* (SALISB.) SCHOTT

旭区矢指町 (1978) 等。田の畔、湿った山足等に多い。

ヒメワラビ *T. torresiana* var. *calvata* (BAK.) K. IWATS.

旭区矢指町 (1978) 等。明るい杉林下等に多い。

ミドリヒメワラビ *T. viridifrons* TAGAWA

緑区三保町 (1979) 等。やや湿った林縁等に多い。

シシガシラ科 Blechnaceae

シシガシラ *Struthiopteris nipponica* (KUNZE) NAKAI

旭区矢指町 (1980), 上川井町 (1981), 緑区新治町 (1981)。やや乾いた杉林下に稀。

コモチシダ *Woodwardia orientalis* Sw.

旭区桐ヶ作 (1979), 緑区池辺町 (小崎, 1987) 等。山麓の崖地に少ない。乾いた杉林下にも生える。

チャセンシダ科 Aspleniaceae

トラノオシダ *Asplenium incisum* THUNB.

旭区矢指町 (1978) 等。林縁や杉林内に普通。

コバノヒノキノシダ *A. sarelii* HOOK.

緑区三保町 (小崎, 1986)。筆者は採集していない。この産地は河川改修工事で絶滅したとのこと。

ウラボシ科 Polypodiaceae

ミツデウラボシ *Crypsinus hastatus* (THUNB.) COPEL.

旭区白根町 (1980)。赤土の崖地等に稀。

マメヅタ *Lemmaphyllum microphyllum* PR.

緑区三保町 (小崎, 1986) 等。樹幹基部に稀。

ヒメノキノブ *Lepisorus onoei* (FR. et SAV.) CHING

泉区池の谷 (旭区柏町の隣接地, 1981—横浜新産)。

クロマツ林内のクヌギの樹幹に着生している。低地部

としては貴重な産地であろう。

ノキノブ *Lepisorus thunbergianus* (KAULF.) CHING

旭区矢指町 (1979), 桐ヶ作 (1978), 緑区長津田町 (小崎, 1984) 等。樹幹基部等に着生し少ない。桐ヶ作のものは、葉質が薄くソーラスがやや内寄りに着きツクシノキノブによく似ている。埼玉県でツクシノキノブ (塩原, 1977) といわれたものと同じ型だろう。

以上の他にも勝山輝男先生等によって、オオバノハチジョウシダ (筆者も確認した), キジノオシダ, タニヘゴ等が当地域で発見されている。

目録に記した以外に、シケンダ類の雑種をいくつか採集しているが、筆者の不勉強により分類に自信がないので、目録には載せなかった。

文 献

- 秋山 守・守矢淳一・山本 明, 1988. シダ植物. 神奈川県植物誌1988, pp. 60-161. 神奈川県立博物館.
- 出口長男, 1966. 横浜のシダ. pp. 4-9.
- 出口長男, 1968. 横浜植物誌. pp. 31-66.
- 倉田 悟・中池敏之, 1979. 日本のシダ植物図鑑1. 628pp. 東京大学出版会, 東京.
- 倉田 悟・中池敏之, 1981. 日本のシダ植物図鑑2. 648pp. 東京大学出版会, 東京.
- 倉田 悟・中池敏之, 1983. 日本のシダ植物図鑑3. 728pp. 東京大学出版会, 東京.
- 倉田 悟・中池敏之, 1985. 日本のシダ植物図鑑4. 850pp. 東京大学出版会, 東京.
- 倉田 悟・中池敏之, 1987. 日本のシダ植物図鑑5. 816pp. 東京大学出版会, 東京.
- 中池敏之, 1982. 新日本植物誌シダ篇. pp. 178. 至文堂, 東京.
- 大谷 茂, 1966. 神奈川県羊歯植物(1). 横須賀市博物館研究報告, (12): 41-43.
- 大谷 茂, 1968. 神奈川県羊歯植物(3). 横須賀市博物館研究報告, (14): 64-73.
- 大谷 茂, 1980. 神奈川県植物資料(3). 横須賀市博物館報, (26): 2-4.
- 大谷 茂・岡 武利, 1980. イノデ類の2新雑種について. 横須賀市博物館研究報告, (27): 55-59.
- 小崎 昭則, 1988. 新治町で見つけたサクラライカグ

- マ. 赤田通信, (72) : 7403.
- 佐川 昇, 1989. 鳥海山麓シダ採集記(2). 日本シダの
会会報, 2 (77) : 9-10.
- 志村義雄, 1979. シダ植物覚書(IX). 日本シダの会会
報, 2 (39・40) : 3.
- 志村義雄, 1980. アスカイノデを推定片親種とする雑
種性シダ. 日本シダの会会報, 2 (43・44) :
18-20.
- 塩原米康, 1977. 埼玉県でツクシノキシノブ初発見.
日本シダの会会報, 2 (30) : 14.
- 田中一雄, 1987. 神奈川県のパニシダ類 4 種の分布を
調べてみた. 日本シダの会会報, 2 (69) : 24
-25.
- 田中一雄, 1988. 大磯町のシダ植物相について. 平塚
市博物館研究報告「自然と文化」, (1) : 31-
49.
- 筒井貞雄, 1980. 福岡県のヤブソテツ類. 福岡の植
物, (6) : 34-37.
- 湯山五策, 1979. 富士山麓をご案内して. 日本シダの
会会報, 2 (37) : 39.

(藤沢市鵠沼東 2 番 3 - 514)



図1-8. 横浜北西部のシダ植物 (1)

1. フモトカグマ (1980.2.10, 矢指町) 2. オオキジノオ (1979.9.19, 矢指町) 3. ホソバカナワラビ (1988.6.18, 上白根町) 4. ホソバイヌワラビ (1981.5.27, 上川井町) 5. キヨスミヒメワラビ (1988.12.28, 矢指町, 小崎撮影) 6. フジクマワラビ (1982.5.23, 都岡町) 7. サクライカグマ (1987.2.8, 上白根町) 8. ワカナシダ (1983.5.14, 三保町)



図9-19. 横浜北西部のシダ植物 (2)

9. ギフベニシダ (1988. 6. 18, 上白根町) 10. エンシュウベニシダ (1988. 6. 18, 柏町) 11. ムクゲシケシダ (1980. 7. 5, 三保町) 12. チャボイノデ (1982. 5. 29, 上川井町) 13. カタイノデ (1988. 11. 30, 長津田町, 小崎撮影) 14. サイゴクイノデ (1989. 5. 14, 三保町) 15. サカゲイノデ (1983. 4. 17, 三保町) 16. ヒメノキシノブ (1980. 3. 8, 泉区池の谷)